

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年12月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671000315
法人名	医療法人 圭裕会
事業所名	グループホーム サンテ・ヴィラージュ
所在地	鹿児島県指宿市東方8110番地1 (電話) 0993-24-2355
自己評価作成日	令和3年11月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出がままならないコロナ禍でも、天気が許す限り散歩や外気浴が生活の一部となっている。
また医療連携病院の協力をもらいながら、入居者の健康管理や異常の早期発見に努めている。終末期の入所者には、住み慣れた環境の中で、穏やかに安心して過ごせ、また口腔衛生にも力を入れ、連携歯科医院の協力を得て、日々のケアや受診の介助、または訪問診療等を取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・コロナ禍であるが、感染対策を徹底し、毎日の散歩で近隣住民との挨拶をしたり、野菜の差し入れや事業所周りの草取りをしていただく等、日常的に交流している。
- ・運営母体の協力医療機関とは24時間医療連携体制を取っており、看取り介護も行っている。医療機関には週単位の眼科や糖尿病等の専門外来があり、定期的に職員同伴で受診し、適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・毎月、便りで今月の誕生者の笑顔やいろいろな事に取り組んでいる写真、事業所の活動状況を掲載し、一筆箋に個々の生活状況を手書きして郵送し、家族への周知を図っている。
- ・職員は入居者の思いを聞き、洋服の色やデザイン、整髪時の櫛の使い方の特性まで把握し、1:1でのコミュニケーションを大切にしている。
- ・訪問歯科診療で口腔ケアに関する歯磨き方法を直接指導を受け実践している。
- ・代表者・管理者は職員の意見や提案を取り上げ働きやすい職場を目指している。資格取得に向け、サポート体制がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当初より、その人らしく地域の一員として、自然の中で暮らせることを理念にし、全職員が目につきやすい場所に掲げ、理念を共有し実践につなげている。	事業所理念を各階のホール・スタッフルーム・トイレに掲示し重要事項説明書にも掲載している。入職時のオリエンテーションで理念について研修し、全職員も理念を共有し実践に繋げている。全体カンファレンスで支援について振り返りも行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の行事等への参加やボランティアの受け入れなど行っていたが、コロナ禍でホーム内への出入りが制限され、草取りをして頂いたり、野菜等を届けて戴いたり制限はあるが少しずつ交流を続けている。	自治会に加入しているが、コロナ禍で地域行事は自粛している。近隣住民からの野菜の差し入れや草取りをして頂くなど、交流は持続している。毎日の散歩時の挨拶等は日常的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	現在は交流はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は集合しての会議はできていないが、状況報告等、紙面にて行っている。	2ヶ月毎に入居者状況や行事報告・ヒヤリハット・事故報告・コロナ感染対策等についてや市からの伝達事項・外部調査の状況報告・ホーム便りを委員へ持参し報告している。ホーム便りの個人情報についてアドバイスがあり改善に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の紙面での報告を行い、必要時は電話や直接出向いて相談を行い協力関係を築いている。</p>	<p>市担当者とは窓口運営推進会議資料やホーム便りを届け、ヒヤリハットの相談や電話でも報告し、日頃から協力関係を築いている。福祉担当者とは訪問等もあり、情報を共有し、協力関係にある。市主催の研修にリモートで参加している。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>勉強会を開き身体拘束をせず見守りができるよう、全職員で取り組んでいるが、コロナ禍で感染予防のためホーム出入りの制限のためと、離脱防止のため玄関は、施錠をしている。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を年4回、マニュアルに基づき勉強会を実施している。安全対策としてセンサーマットや鈴利用の説明を行い、スピーチロックについてもその場で注意している。日中の玄関施錠は、危険行動や帰宅願望者の為にしており、声かけや見守りを行ない、ソファに一緒に座って話したり、中庭を散歩して支援している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行い、再確認しながら、虐待防止に努めている。職員間では、カンファレンス等で自分たちの言動を出し合い、注意再確認に努めている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在1名の方が利用されている。勉強会を開き学ぶ機会を設けているが難しいことも多く、必要時は行政への相談を進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所の際不安や疑問点を聞きながら、説明を行っている。不明な点はその都度説明し理解してもらえるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で家族会や運営推進会議への参加はできていないが、毎月のホーム便り等で状況は報告し、意見や要望があれば、電話等で知らせていただけるようにしている。	利用者には日常の関わりの中で意見や要望を聴いている。家族とは窓越しに携帯で話したり、ホーム便りで。イベントの様子や入所者たちの笑顔の写真、誕生日の写真、事故報告やヒヤリハット、ホームの様子が解る内容にしている。担当者も手書きの生活状況を一筆書きし郵送している。必要時に電話したり、家族から定期的に電話がある等意見を言える機会を設けている。面会要望で窓越しに面会を実施したが声が聞こえにくい状況を携帯電話で会話できるよう改善している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回の全体カンファレンスに、母体代表者も参加して、職員の意見や要望を伝えている。</p>	<p>月1回の全体カンファレンスに母体代表者と管理者は職員の意見や提案を聞いている。管理者は各ユニットカンファや日々の関わりでも意見や相談を受け対応し、休憩時間を確保できるように仕事内容を時間分散することで改善に取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎月の勤務状況を報告している。研修会時は時給を出し、資格取得や意欲向上に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月内部研修を開催している。外部への研修参加は出来ていないが、オンラインでの研修など、今後進めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍で集まったの交流は出来ていないが、電話等で相談しあっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に訪問したり、ホームに来て頂き、少しでも本人の状態を把握でき、安心して入所していただけるようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所申し込みや入所時に不安や要望等話をよく聴き、関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所時家族や本人との会話で、必要としている支援を見極め、必要時は家族の協力ももらいながら、必要なサービスを受けられるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に暮らすという意識を持ち、人生の先輩から学ぶことも多く、喜怒哀楽を分かち合える関係づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ホーム便りと一緒に個人の状況を書いたお手紙を送ったり、必要時はその都度電話をかけ、随時報告している。現在はコロナ禍で外出や面会も制限されているが、必要時は受診等をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出や面会など出来ていないが、電話をかけていただいたり、思い出話等傾聴することで、忘れないようにしている。	入所時の情報から、入所者との馴染みの人や場との関係性を把握している。電話やはがきなどの取次支援をしている。訪問理美容や家族の承認を得て職員による整髪支援、買い物は職員が代行している。定期受診帰りにドライブで支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮し席を配置し、お互いに助け合ったり、楽しめるよう見守っている時に個性が強く、ヒートアップされる場合があるが、常に見守り関係改善に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡等で退所されても、お見舞いに行ったり、お通夜や葬儀に参加している。状況次第では再入所できるよう支援している。退所された方のご家族が、訪ねてこられることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を聞きながら行っているが、自分の思いをうまく伝えられない方は、本人の表情や機嫌、そぶりを見て意向の確認を行っている。	暮らし中で仕草や表情から推測し対応している。入浴や散歩の時に思いや意向を聞いている。困難な場合は家族の助言を得て言動や態度で意向の確認行ったり、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に担当者から連絡票をもらったり、本人やご家族から経過を聞いているが、不明なことが多い。わからないことは生活していく中で、思い出したことを職員間で共有し経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個人の経過を記録し、職員間では申し送りを行って情報を共有し、状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケースカンファレンスを行い、その時々状態を全員で共有し、ケアプランに反映している。モニタリングは3か月毎に行い、見直しは年1回以上及び状態変化時に行っている。	本人や家族の意見を基に担当者会議で意見交換し、現状に即した介護計画を作成している。毎月のケースカンファレンスを行い、ケアプラン更新時、往診時の方向性を参考にモニタリングは3ヶ月毎、見直しは年1回行っている。状況に変化があった時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に日々の様子を記録し、申し送りで情報を共有している。毎月のカンファレンスで、問題点や注意点を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人の状況を勘案し、買い物支援や病院受診など対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアの受け入れや行事等への参加で協力を仰いでいたが、コロナ禍でそれもかなわず、散歩等で挨拶を交わす程度となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は母体病院がかかりつけとなっている。関係が密に取れ定期受診や専門医受診など、安心して医療が受けられている。	本人や家族の希望で母体医療機関がかかりつけ医となり、定期受診や往診を行っている。歯科訪問診療もある。母体医療機関内に眼科・精神科・糖尿病等の専門外来があり、月2回の定期受診や週1回受診がある。健康管理は事業所の看護師がしている。緊急時や24時間医療連携体制で適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常生活の中で気づいたことを、ホーム内の看護師に報告している。必要時は連携病院の看護師と連携し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は付き添い、サマリーを提出し入所者の状態を細かく報告している。退院に際しては不安なくできるよう、関係者と情報を交換し、対処している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に大まかな終末期の希望を聞いている。心身の状態により入所継続が困難な時は、段階的に他病院の紹介や介護施設等の申し込みをお願いし、転所の手続きをとる場合もある。重度化の場合は家族と同席し、主治医より看取りの説明を受け、住み慣れた環境の中で、最期を迎えられるようにしている。</p>	<p>マニュアルがあり入所時に説明し同意書を貰っている。発熱や血圧・呼吸状態などの変化時は、その都度家族に説明している。重度化の場合、医療機関で主治医から家族に説明があり、管理者も同席し、家族の意思確認をしている。必要時訪問看護の利用や母体医療機関に相談しながら看取り介護支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急法の講習を受けたり、勉強会を開き、マニュアルの確認を行っている。また事故発生後は再発防止に向け話し合いを設けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導の下、避難訓練、通報訓練等実施している。以前は地域住民の参加もお願いしていたが、コロナ禍で職員のための訓練となっている。台風や水害、地震等の訓練も行っている。スタッフ間も、災害前には役割確認、連絡網の調整など行っている。</p>	<p>消防署の指導のもと、年2回昼夜間想定で、避難訓練・消火訓練通報訓練等を実施している。自主訓練で水害・地震などの訓練も行っている。自動通報装置に公民館長も登録している。コロナ禍前の訓練時は近隣住民の協力が得られていたが職員のみで実施している。備蓄は米・水・麺類・レトルトカレー・缶詰等の非常食とカセットコンロを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時のノックや声掛け、更衣やトイレ時のドア閉め等、日々気をつけながら行っている。危険行為時大声で注意しがちであるが、他入居者への配慮をしながら、個別に対応している。	入職時と年1回接遇などの勉強会を実施している。入室時のノックや声かけ、排泄時はドアを閉める、プライバシーを損ねない言葉かけや個別対応を日々心がけている。入浴時は希望に応じて同性介助で支援している。衣類の選択も自己決定できる様、声かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各動作に際し、本人の体調や様子を見ながら声掛けをし、本人の希望を聞き参加を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の流れに沿って声掛けし、その日の体調や様子を見ながら、参加意思を確かめ、その人に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人に合わせたおしゃれができるよう支援している。髪形や服装の小さな変化を誉め、おしゃれ心を失わないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立表を掲示し、話題に取り入れながら、オープンキッチンから流れる匂いや音で、食浴をかきたてている。季節の行事食やお誕生日会のケーキなど、楽しんでもらえるよう工夫している。食後の片づけを手伝ってもらっている。</p>	<p>栄養士の作成した献立をもとに、利用者の好みを取り入れて調理している。食形態も個人に応じてミキサーや刻み・粥・代替品での対応もある。季節行事食や誕生日には希望のちらし寿司や赤飯を提供し、誕生会ではケーキでお祝いする等、皆で楽しめるよう支援している。後片付けのお盆拭きや台拭きを職員と一緒にしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>好き嫌いを把握し、食べられないものは個別に対応している。一人一人の状態に応じ、調理法や量の調整を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、できない方は介助し、自己にてできる方も夕食後は確認し、義歯消毒を行っている。舌ブラシや歯間ブラシを使用し、残歯のある方は歯科受診によるメンテナンスを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員で共有し、自己にて意思表示のない方も、時間を見てトイレ誘導を行ったり、仕草や状態を見て対応している。	排泄パターンや行動パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を支援している。声かけ誘導しトイレ排泄を見守る等、自立に向けた支援を行っている。夜間も身体状況に応じてパット交換や声かけ支援している。見守りや声掛けで、失禁用ショーツ使用が減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便カウントを行い、水分や食事量の調整、必要時は緩下剤の調整など行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日や時間は大体決まっているが、マンツーマンで対応し、個別の話ができる良い機会となっている。普段は天然温泉をゆったり楽しまれ、必要に応じて2人介助や、希望での同性介助など行っている。	入浴は週2回で午後からの1:1の支援である。天然温泉でゆったりと楽しんでいる。入浴拒否がある場合は時間をずらし、声掛けを工夫したり、翌日支援している。健康状態に応じて全身清拭や足浴・陰洗等の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や生活のリズムに合わせて休息を促し、睡眠がとれるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬状書を身近に置き、全員で共有できるようにしている。また薬の変更時は申し送りをしっかりし、症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出や面会等の楽しみが減っているが、季節に合わせた行事や、誕生日会などホーム内のできるイベントを定期的に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出は出来ていない。近所への毎日の散歩や、近場でのドライブなど行っている。	コロナ禍であるが、ユニット毎に花見のドライブを行ったり、定期受診帰りに近場をドライブ支援している。毎日1:1での散歩や車いす使用の入所者とゆったり歩いたりして、外気浴支援をしている。事業所行事も縮小して実施し、楽しみが持てるよう工夫支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自己にてお金を管理されている方はいない。必要時職員や家族に欲しいものを頼んで買ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自分から電話をかける方はいないが、ご家族より電話をかけていただき、お話しされている。またご家族より定期的に、お便りが届く方もあり、喜ばれている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやよしずで光を調節し、エアコンや加湿器で温度や湿度の調整をしている。共用空間の壁面には、入居者の作品や季節感のある掲示物、花などを飾り季節和感じていただいている。ソファや椅子、畳等でくつろげるよう工夫している。	共用空間はエアコンや加湿器で温度や湿度の調整を行い、カーテンなどで採光を調整、一日中換気を行い、過ごしやすい環境を心がけている。玄関には季節の花を飾り、ホールにはソファや椅子・畳で寛げるように工夫している。壁面には季節の飾りや入所者の塗り絵の作品、庭の花を活けて季節感を取り入れた空間となっている。居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者同士の相性を見て席順を決め、少しでも話がはずんだり、お互いが楽しく過ごせるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や好みの飾り等を持ってきてもらったり、愛用の品を持ってきてもらい、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室は電動ベット・洗面台・クローゼット・エアコンが設置されている。洗濯済みの寝具類が持ち込みとなっている。その他ダンス・家族写真・孫からの贈り物の絵・遺影などが飾られ、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置したり、トイレや居室のネームプレートを大きくしたりして、自分でわかるようにしている。玄関や勝手口のスロープや出入り口のベルやセンサーの設置など、安全面も考慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない